平成27年度第２回北海道立図書館協議会会議概要

日　時：平成27年11月17日（火）
会　場：北海道立図書館　会議室
出席者：協議会委員８名、道立図書館職員12名
傍聴者：なし

議事等
１　議題
（１）平成27年度北海道立図書館運営計画の中間報告について
２　その他

会議概要　（○～委員の発言　●～道立図書館職員の発言）

１　議題
（１）平成27年度北海道立図書館運営計画の中間報告について
伊藤利用サービス部長説明・・・資料「平成27年度事業の実施状況」参照

＜（２）課題解決型サービス　－　ア　暮らしの支援＞
○　今年の４月から国立がん研究センターと連携して、がんに特化した医療情報を発信する取組を行っていますが、それまで医療情報に関するブックリストに力を入れているというわけではなかったので、事業を進めていく中で「闘病記」等の道立図書館の医療・健康情報に関するブックリストを参考にさせていただき、大変役に立ちました。
○　貸出しが増えましたか？
○　ブックリストを作成しホームページにアップしたので、御利用していただいていると思います。また、レファレンスがあった際に関係機関に結びつけてゆく等、これから活用を進めて行きたいと考えています。

＜（１）市町村支援　－　ア　市町村立図書館等の活動支援　－　（ア）図書館活動支援　－　ａ　運営相談事業＞
○　市町村立図書館の中には指定管理の図書館もあると思いますが、市町村直営の図書館と指定管理の図書館では、運営相談の内容に違いはありますか？
●　さほど大きく相談内容に差はありませんが、短期間の雇用でまだ２年目、３年目の状況である指定管理の図書館からは、運営全体の見直しをしたい、今の運営のままで良いのか、といった相談内容が特徴としてあります。

＜（７）資料整備　－　ア　道立図書館の責務を果たすための資料整備　－　（ア）資料の収集整備＞

○　来館して利用していますが、もうこの本は整備されているであろうと思った本が整備されていない場合が多いです。道立図書館の図書購入費の状況は、全国的に見て充分な状況なのでしょうか？

●　当館の図書購入費の状況は、全国的に見ると決して誇れる状況ではありません。蔵書冊数は多いのですが、道の財政状況が傾いておりますので、新しい本を充分に整備できるかというと、なかなか厳しい状況です。また、来館者への貸出しは平成になってから行っているので、来館者に対するサービスはなかなかレベルに達していないかもしれません。

　当館は図書館のための図書館として設立しており、市町村図書館では購入できない図書を中心に収集しておりますので、できるだけ市町村のオーダーには応えてゆきたいと考えていますし、図書購入費を増やすことは大事なことだと認識していますので、財政サイドに働きかけていきたいと考えています。

○　市町村の図書館よりは図書購入費は多いと思いますが、来館者へのサービスはもちろん、市町村立図書館のサービス向上のために、図書購入費の増額について努力していただきたいです。

●　寄贈していただくことも大きな財産ですので、色々なところにお願いしていこうと考えています。

＜（1）市町村支援　－　ア　市町村立図書館等の活動支援　－　（ア）図書館活動支援　－　c　図書館行事支援事業＞

○　新篠津村の図書室まつりと寿都町のブックフェスティバルの事業内容と支援内容はどのようなものですか？

●　新篠津村については、子どもを含めたイベントをするのが初めてだったそうで、他ではどのような事業を行っているかの情報提供と、当館で貸し出しできる事業支援用のエプロンシアターや大型絵本の紹介等の事例紹介を行いました。

　寿都町については、小学生をターゲットにした事業と20周年を記念した展示事業を行いたいという二本立ての内容だったので、20周年事業についてはちょうど20年前の懐かしい雑誌等を当館で保存しており、貸出可能である旨説明しております。ブックフェスティバルについては、工作機会も含めた形で子どもたちにアピールしたいということだったので、重点運営支援事業の市町村でもあったことから、工作や夏休みに使える資料を少し多めに貸出しを行う等の支援を行っています。

○　ボランティアの方に対する講演等の講師を紹介していただくことはできるのでしょうか？

●　当館で把握している範囲内で、随時情報提供を行っております。

＜（1）市町村支援　－　イ　図書館設置の促進＞

○　「図書館設置促進パンフレット」の改定は、どのような状況ですか？

●　数値等の修正を行っており、早いうちに改定できるよう準備を進めています。

○　活発な活動をしている図書館と、そうではない図書館とでは結構開きがあるものですか？

●　理事者の考えにもよるのでしょうが、人口がどんどん減少していく中で、市町村における施策として打ち出せるかどうか、施設・設備の整備や司書等の人材確保等、難しい状況であると思います。当館としては、全道どこに行っても同じような住民サービスを受けることができるよう、粘り強く市町村の皆さんとお話し合いをしていくというのがベターだと考えています。

○　図書館のある地域とない地域がありますし、北海道の図書館の中には全国レベルで良い活動をしている図書館もありますし、地域によって図書館サービスの幅が広いので、北海道内の格差を埋めていくのが道立図書館の大きな役割だと思います。

２　その他

（１）利用時間の延長に係る実施結果について

伊藤総務企画部長説明・・・資料「平成27年度北海道立図書館利用時間の延長に係る実施結果」参照

（２）図書館地区別（北日本）研修について

伊藤総務企画部長説明・・・資料「平成27年度図書館地区別（北日本）研修開催要項」参照

（３）学校図書館への貸出状況について

伊藤利用サービス部長説明・・・資料「平成27年度学校図書館協力貸出の利用実績」参照

○　以上で予定されていた議題は終わりましたが、他に何かありませんか？

○　北海道立図書館が、市町村立図書館とは異なる役割があるのは理解できますが、せっかく蔵書量が多いのにそれを利用することができる開架スペースが少ないという問題があると思います。利用者がもう少し気持ちよく利用できるように、もっと開架スペースを増やした方が良いのではないかという要望を持っていますが、いかがお考えでしょうか？

●　来館する利用者に実際に手に取ってもらって、自由に本を見ていただける開架書庫を増やすことは利用者へのサービス向上の観点からも、大変重要であると考えています。しかしながら、当館はもともと直接貸出しする図書館ではなかったので、構造上そのような作りになっておらず、またこの建物はまもなく50年を経とうとしていますので、蔵書の割に閲覧する面積が少ないという今となっては非常に厳しい状況であります。その一方、利用者からも同様の声をいただいております。

開架書庫の拡大については、創立80周年の記念事業として第２書庫の３層を開架している経緯があるので、来年創立90周年を迎えることからも、児童書書庫や北方資料室、一般閲覧室等を含め限られたスペースではありますが、職員と知恵を絞ってサービス向

上の観点から検討していきたいと思います。

○　90周年に向けて、努力していただきたいと思います。

閉会挨拶

●館長

本日は大変お忙しい中御出席いただき、御意見をいただきありがとうございました。本日は主に半年間我々が取り組んで参りました事業の成果について報告させていただきました。進捗状況に遅れが生じていたり、目標にまだ達していない事業もありますので、職員一同しっかり取り組んで参ります。また、開架書庫の拡大等の貴重な御意見をいただきましたので、色々と検討して参りたいと考えております。今日いただいた御意見を参考に、職員と話し合いながら進めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（資料配付のみ）

・道議会図書室（道立図書館の連携）取組報告　Vol２

・あけぼの通信　No.52